

総合学術研究科での学びについて ～ 在籍生インタビュー ～

総合学術研究科に在籍する院生が、今、何を考えているのか。その本音を探ります!!

僕たちが
お答えします!!



関連ページへのリンクも
ご利用下さい♪

博士前期課程2年生 N君
(農学部 生物環境学科 出身)

博士前期課程2年 R君
(理工学部 環境創造学科 出身)

博士前期課程2年 L君
(理工学部 環境創造学科 出身)

Q. まずは、総合学術研究科に入学した理由を教えてください

N. 僕は、名城大学農学部（生物環境学科）の出身ですが、もともと遺伝子に興味があり、13号館に貼ってある総合学術研究科のポスターを見て興味を持ち、応募しました。

Q. 農学部でも遺伝子を扱えるのでは？なぜ総合学術研究科へ？

N. 僕が所属していた学科では、遺伝子を扱っている研究室がほとんどありませんでした。

もう一つの学科（生物資源学科）では遺伝子を学べるのですが、[総合学術研究科の学費](#)の方が安かったのが決め手になりましたね。

L・R. 僕たちは、学部4年時から総合学術研究科の[高倍先生の研究室](#)で研究に参加させてもらっていました。

Q. 大学院に進学する決め手になったのは？

L. 研究を実際に行ってみて、植物を使って地球環境に貢献するという内容に衝撃を受けたことが決め手です。

R. 僕は、ずっと工学的な観点から勉強していましたが、植物を含めて生物のことを知るにつれて、さらに深く知りたいと思うようになりました。

Q. 就職は考えなかった？

L. 就職も考えてはいましたが、好きな研究は今しかできないという思いがありました。

R. 僕も、就職活動はしていたのですが、バンド活動をしていたこともあり、中途半端になってしまっていました。ちょうど震災の影響もあり、募集人数は少なかったようです。また、大学院に入れば就職が有利になるという思いがありました。



Q. 総合学術研究科に入学してよかったことを教えてください

R. いろんな意味でスキルアップができました。

Q. いろんなとは？

R. 分子生物学のスキルを習得することができました。

それから、総合学術特論では、プレゼンテーションのスキルアップができましたよ！
プレゼンに関しては、研究科で講師を呼んでセミナーまで開催してもらい、とても役に立ちました。

N. たしかに！大勢の教員の前でプレゼンをすることになって、度胸はつきました！就職活動でもそれが強みになりました。準備にはかなり時間をとられ面倒でしたけど(笑)

R. それから、学会でタイに行きました。これは、僕にとってターニングポイントになりました。海外の学会は、国内の学会と比べると自分の意気込みも違ったり、とても刺激を受けました。それに、東南アジアでの日本企業の影響力の大きさを知りました。

L. 学会のほかに、国際交流センター（現 国際化推進センター）主催のタイスタディツアーにも参加しました（N・R・L 3人とも）。

R. 指導教員の高倍先生が、このツアーの中心メンバーの一人となっているので、このような機会があることを知ることができました。主催するセンターも一応宣伝しているようなのですが・・・普通はなかなか気付かないと思います。

L. 自分の修士論文のテーマは生物学なのですが、総合学術研究科では、いろいろな分野の先生がいるので、分野外の心理学や海洋系の話が聞けたのが勉強になりました。

Q. 分野外でも勉強になる？

L. 目線が変わりました。たとえば海洋系の話聞いた後では、三河湾のアサリの収穫量など、身近ですが、これまでに気にしていなかったことに興味をもつことができるようになりました。

R. 実際に三河湾で学外海洋実習も行いました。これも総合学術研究科ならではの授業だと思います。

N. 農学部と比較すると、学生数に対して教員数が多いのがよかったです。

Q. どれくらい違う？

N. 農学部では学部生もあわせると、教員 1 人に対して 10 人以上の学生がいるところが普通ですが、総合学術研究科では、マンツーマンに近い感じで指導を受けることもできます。

Q. 設備はどうですか？

N. 研究室では装置が十分にそろっていて、自由に使えます。農学部ของときは、機器によっては一カ月待ちのときがありました。

L. 総合学術研究科は 独立研究科[※]で下に学部がないし、割と少人数制なので、やはり機材は使いやすいです。



※独立研究科：学部に基礎を置かない研究科(大学院)のこと。総合学術研究科はあるけど、総合学術学部はないんだ！

Q. 総合学術研究科に入学してよくなかったこと、思っていたのと違ったことは？

- L. 就職活動のとき、「総合学術研究科」って何？と聞かれると、非常に答えにくかったです。
- R. 「文理融合」って何？とも、よく聞かれました。

Q. どうやって答えた？

- L. 正直に、生物学と心理学を学んでいると答えるようになりました。
- R. [ホームページ](#)に載っているような言葉で答えていましたが、実際には文系の科目は表面的にしか学べていないので、うまく説明できずに困りました。
- N. 僕は、「研究がメインの独立研究科です」と答えるようにしていました。

Q. 入学する前の想像と違ったことは？

- R・L. 僕は4年の時から研究に参加していたので、そういうことは特になかったです。
- N. 僕も入学する前に自分なりに調べたので、特にありません。

Q. そのほかは？

- R. 名城大学の学生から、「総合学術研究科って何？そんなのあるの？」と聞かれます。知名度が低いと思います。
- N. 僕は、バイオ系の研究をしていますが、就職先にはIT系を選びました。この場合、就職活動において大学院に入ったメリットがなかったのでは？と思っています。

Q. 「文理融合」という言葉について思うことを挙げてください。

- N. もともと僕は調べてから入学していたから[研究科のカリキュラム](#)は大体わかっていたから良かったのですが…
名前のイメージからすると、経済学や経営学、また語学などをやっているイメージが湧くと思います。
- R. 実際は生心融合（生物と心理学の融合）にとどまっています。
- N. 1年時に少し心理学を学んだだけです。
- L. 文理融合をどこまで実現させたいのかわかりません。総合学術特論では文理融合の体をなしていると思いますが、[修士論文のテーマ](#)として文理融合は全くできていません。
- N. 修士論文でも、僕は生物学がテーマですが、少し経済的なファクターを含めた考察をしたりするべきだろうと思っています。



Q. 厳しい意見が多いですね。

- R. やはり、経済とか経営とかも学びたかったです。そのほうが研究科として魅力がもっとでてくると思います。
- N. いずれにせよ、大学院の2年間だけで文系科目と理系科目を学ぶのは時間的に難しいと感じました。

Q. 最後に、これから入学してくる後輩に対してメッセージをお願いします。

- N. 先生の数が学生に対して多いので、親身になって研究指導してくれます。研究環境が整っている研究科です。
- R. 本当にやりたいことを早めに見つけて、実行していくことが大事です。時間を見つけて英語の勉強をしておきましょう。
- L. 先生も親切で、研究設備も整っています。研究するにはうってつけの研究科です。